

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	English F		
英文授業科目名	English F		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目Ⅰ		
開講学科・専攻	電子工学科 システム工学科		
担当教官名	社本 雅信		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shamoto@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>読解力向上と表現力向上。</p> <p>英語を読み解くには、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英文法の知識 2. 文脈に合った英単語・熟語の意味への推理力 3. 素材に対する教養と知識が必要である。 <p>この授業では、科学的読み物を読みながら、英語を読み解く戦術を授ける。</p> <p>つぎに、英語表現力を向上させるには、英語を英語として成り立たせている根本的な原則、平たくいえば、英文法の基本的なことがらを記憶し理解した上で、練習問題を数多くこなすことが必要である。英語学習上、特に徹底した理解を要するのは、時制・関係詞・態・仮定法であろう。その意味で、年間を通じて、これらの文法事項に関連する表現訓練を重ねる。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>[教科書]</p> <p>(1) 科学英語読本 (英潮社、1,470円)</p>

電気通信大学 平成17年度シラバス

(2) 大学基本英作文 (北星堂、1,155円)

【授業内容とその進め方】

後期における授業内容は、前期で終わったところを引き継ぐ形になる。

(a) 授業内容

上記教科書(1)を使い、次のことを行う。(ほぼ50分から60分間)

「科学英語読本」は、一流の科学者作家たちが、高度の科学的知識を持ち合わせない人も理解できる分かりやすい英語で、さまざまな科学的題材を解説した短いエッセイを集めたものである。後期は、「テネシー川を制御する」、「恐竜 - 発見とその世界」、「サハラ砂漠の水」、「熱とその作用」、「時間と星」といった話題を読む予定である。科学的な読み物は、何をどうしたらどうなったか、という具合に、正確に文脈をつかむことが大切である。

上記教科書(2)を使い、さらに一層英語運用能力を高める。自由英作文を課して、講評添削する。(ほぼ30分)

(b) 授業の進め方

毎回8人程度が訳読を担当する。一人7行から8行の英文の意味を取らせる。発表担当者は、予習に十分時間を注ぎ、英文の構造をよく分析し、文脈に合った単語・熟語の意味を推理して行くこと。

英作文の方は、しばしば順不同で当てる。頭を使い、実際に手で書いてはじめて、英作文の力がつく。人の書いたものをただ見ているだけでは、力は付かない。そのため、宿題を課して、この習慣をつけることも考えている。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

学期終了後の成績を100%としたとき、期末試験の占める比率は70%～75%、平素の発表・授業に対する取り組み方・小テスト(2回実施)の成績を25%～30%とする。発表の出来は、英文をどの程度正しく解釈できたか、英語らしく発音できたか、英作文の問題に対する解答がどの程度正解に近づいたか、を判断材料にする。

なお、(1)小テストを欠席すれば、その分は零点として扱い、

(2)欠席が後期授業回数の3分の1を超える場合は、定期試験の受験資格を失う。

(b) 単位取得に必要なレベル：

定期試験および小テスト(ペーパーによる試験)が平均50点以上、発表担当を休まず、そのできがCランク以上であること。基本的な不規則変化動詞の活用、接尾辞との付け方、態、関係詞をマスターしていること。

【オフィスアワー：授業相談】

金曜日3時から5時半。できるだけappointmentをとるようにしてほしい。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【学生へのメッセージ】

- (1) 語学は継続が大切。休めば取り返すのに2倍、3倍の労力を要する。
- (2) 英語を読むにも、書くにも、語彙力を増強させるに越したことはないし、平素英和辞典だけでなく各種の英英辞典に親しんでいると、自然と英語の総合力がついてくるものである。

【その他】